

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 御幸 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 60人 国語B 60人

② 算数A 60人 算数B 60人

5 留意事項

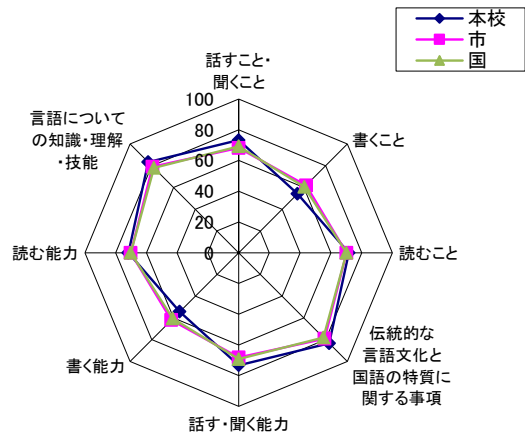
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

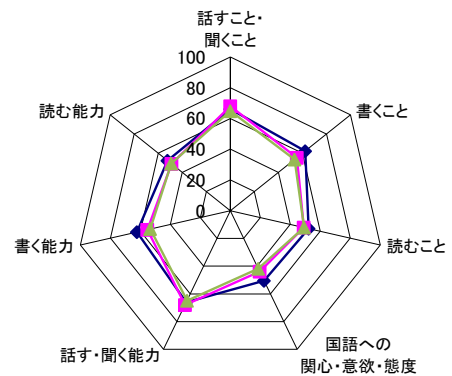
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.3	68.2	69.2
	書くこと	54.2	62.0	60.6
	読むこと	71.7	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.3	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	73.3	68.2	69.2
	書く能力	54.2	62.0	60.6
	読む能力	71.7	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	83.3	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.1	68.0	64.9
	書くこと	62.3	55.3	53.4
	読むこと	52.2	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	50.6	43.9	41.7
	話す・聞く能力	66.1	68.0	64.9
	書く能力	62.3	55.3	53.4
	読む能力	52.2	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

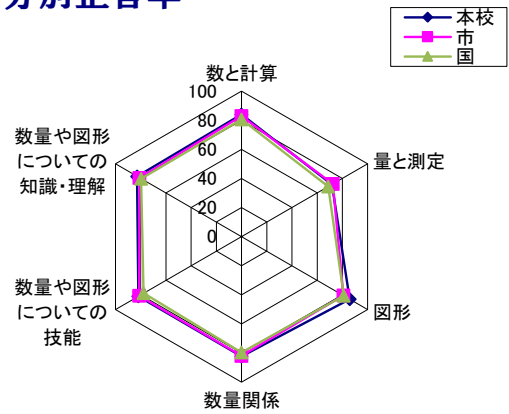
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A領域の平均正答率は73.3%で、全国平均を4ポイント上回っている。 ○B領域の平均正答率は66.1%で、全国平均よりやや上回っている。その中でも「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す」問題については、全国平均を7ポイント上回っている。	●国語科の授業はもちろんのこと、他教科においても「なんのために話し合いを行うのか」ということを明確にしながら、話し合いの指導を行っていく。
書くこと	○B領域の平均正答率は62.3%で、全国平均を約10ポイント上回っている。「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」問題では、全国平均を11ポイント上回っている。 ●A領域の平均正答率は54.2%で、全国平均を6ポイント下回っている。特に「手紙の構成を理解し、後付けを書く」では8ポイント下回った。	●手紙の構成について、一度学習しただけでは身に付かないので、書く機会を設けるようにしていく。 ●目的や意図に応じて、資料などを基に自分の考えを書いたり、目的や意図に応じて、伝えたい内容が十分に伝わるように、事実と意見を明確に区別する文章を書いたりする機会を多く設けるようにする。 ●書くことに苦手意識を持っている児童については、個に応じた指導を行っていく。
読むこと	○A領域の平均正答率は71.7%で、全国平均をやや上回っている。そして、B領域の平均正答率は、52.2%で、全国平均を3ポイント上回っている。説明文・物語文ともに読み取る力が身に付いている。 ●「俳句の情景を捉える」「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」問題は全国平均を下回り課題が残る。	●司書教諭と連携を図りながら、日常の読書指導を充実させていく。 ●説明文や物語文などの筆者の考えに対して、自分の考えを広げたり深めたりできるような「読み取り」の授業を展開するようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は83.3%で、全国平均を5ポイント上回っている。漢字の読み取りや書き取りの力が身に付いている。	●漢字指導については、継続して繰り返し学習を行う。また、定着を図るために、小テストや単元テスト、学校全体で行っているチャレンジテストを活用する。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

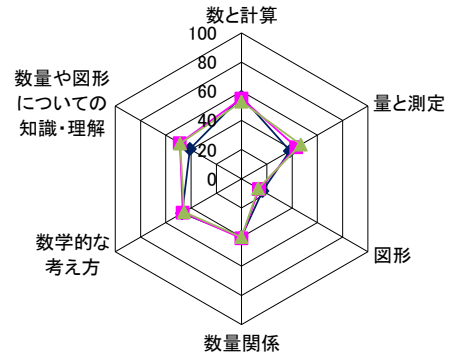
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	84.0	82.9	80.6
	量と測定	71.7	72.5	68.8
	図形	85.8	80.8	81.1
	数量関係	82.3	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.9	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	82.9	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	56.3	55.1	52.8
	量と測定	38.3	43.4	47.0
	図形	16.7	13.8	13.2
	数量関係	39.8	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	47.0	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	40.8	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、A、Bともに全国平均をを4ポイント上回っている。計算の技能が身に付いている児童が多くなっている。	・授業の初めに計算ストレッチを取り入れ、繰り返し取り組んできたことが、計算力の向上につながっていると思われる。 ・習熟度別学習で個に応じた指導を実施しているが、今後も充実を図るようにする。
量と測定	○A領域の平均正答率は71.7%で、全国平均を3ポイント上回っている。 ●B領域の平均正答率は38.3%で、全国平均を9ポイント下回っている。平均を求める式を選んだり、仮の平均の考えを活用して、測定値の平均の求め方を記述したりする設問の正答率が低かった。	・平均については定着が図れるよう復習のための練習問題に取り組ませる。 ・授業の中で、自分の考えを算数的な表現を使って、記述させる機会を多く取り入れるようにする。
図形	○A、B領域の平均正答率は、ともに全国平均を上回っている。特に立体の面と面の位置関係を理解している児童が多く見られた。 ●B領域の「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる」の設問では、正答率が16.7%と低く、また無解答率も13.3%と高い。	・活用問題に抵抗感をなくすよう、授業の展開を工夫したり、自分の考えを図や絵、式などで説明できるようにしたりして、算数的な考えを育てていきたい。 ・習熟度別少人数指導により、よりきめ細かな指導を行うことで、自分の考えを記述できるようにしていく。
数量関係	○A領域の平均正答率は82.3%で、全国平均をやや上回っている。B領域についても全国平均とほぼ同程度であった。A領域の「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる」設問の正答率が高かった。 ●B領域の「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる」「示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できる」という設問の正答率が低かった。	・割合の学習はなかなか理解できない児童が多く、生活の中で使われている割合を実感させたり、数多くの練習問題に取り組ませたりすることで、定着を図るようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか」の質問に対して83.6%の児童が肯定的回答をしている。達成感を得られることは大切なことである。様々なことにチャレンジさせて、最後まで粘り強く頑張ることを今後もさせていきたい。

○●「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができるか」の質問では、73.8%の児童が当てはまると回答し、全国の平均を10%以上上回っている。しかし、「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる」という質問の肯定的回答は、39.3%と低かった。「話す」「聞く」については全校で取り組んでいるが、さらに「話す」ことに対して抵抗をなくしていけるように、自分の考えを持てる工夫をし、話すことができる児童を育成していく。

○「5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うか」「5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思うか」「5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習に取り組んでいるか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」の4つの話し合いに関する質問では、全国平均を10ポイントから20ポイント上回る肯定的回答で、話し合い活動が充実していることが分かる。今後も授業の中で話し合い活動を取り入れながら、思考を深めるために有効な話し合い活動を実施していくようにする。

○「読書は好きか」の質問では「当てはまる」と回答した児童が72%で、全国平均を20ポイント以上上回った。週2回の朝の読書の時間、国語の時間、週末読書の推奨により、学校で時間を設定すると本を開いて読む児童が増えている。今後も全校で読書活動に取り組んでいきたい。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか」の質問では、4時間以上すると回答した児童が16.4%で、全国平均を7%上回っている。また、「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか」の質問でも、4時間以上していると回答した児童が、全国平均を4%上回っていた。普段の生活の中で、4時間以上やっているということは、家に帰ってからほぼテレビゲームやスマートフォンなどをやって過ごすことになる。時間の使い方について考えさせるような機会を持ち、読書や家庭学習の時間なども取り入れ、有効な時間の使い方をしていけるようにする。また、保護者へも結果について知らせ、子供と共に生活時間の使い方を考えさせるようにする。

●「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」「家で宿題をしているか」「家で授業の復習をしているか」の質問では、「している」と回答した児童が、全国平均をやや下回る。学年だよりを通して家庭学習の大切さについて家庭に呼びかけたり、家庭学習強化月間を設けたりして向上に努めているが、今後も発達段階に応じて主体的に家庭学習に取り組む態度を育てていけるよう取り組みを推進していきたい。

宇都宮市立御幸小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあてと振り返り活動の充実	学校課題である「分かる授業づくり」の中で授業のめあての持たせ方、振り返りのさせ方について共通理解を図っている。振り返りについては言葉で記述させるようにしている。	・「めあて」が示されていたと思うかでは、当てはまると回答した児童は、62.8%で全国平均より約4%よい。また、「振り返る活動をよく行っていたか」の質問では、49.2%の児童が当てはまると回答していて、全国平均を13%上回っている。
読む力の育成	読解力をつけるために全校で朝の学習の時間に「朝5分ドリル」を利用し、文を読み取る力をつけるようにしている。	・国語「読むことの」設問では、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むことは全国平均を上回ったが、俳句の情景を捉える設問は、全国平均を下回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の充実	家庭学習についての考え方を職員で共通理解し、宿題の時間や自主的な学習への取り組みなどを指導している。	・家庭学習に関する計画を立てる、学校の宿題をする、授業の予習をしている、授業の復習をしているの質問の「している」と回答した児童はほぼ全国平均であったが、計画を立てることや予習、復習をしている児童の割合が20%前後と低い。